

かしの木広場

富岡市地域子育て支援拠点事業・子育て通信 2025年11月 NO279

かしの木保育園
富岡市黒川 64
TEL03-4215
FAX67-1360

一 園庭開放
8:30~17:30(月~金)
各園が取り柄ので
2階の事務所に託
掛けて下さい。

草染めやてみまう
うぬぐいそ
マインゴールド染め
めす製作うう

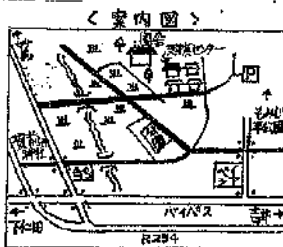
11/25(水) 11/28(金)
(金) (有) 有子
材料代 200円



松"他着がえな
入れ。おま掛けに
便利"よ

今年度の春広場では、6月に「ギョウキ帽子を作ろう」
10月に「ボールを作ろう」で2回縫い物の製作をしました。
お母さん達の縫い物に、向かい岸が来てお参りで、
針で縫い進めていくのが気持ちいい。その空気の中で
子ども達もぐっすり寝ていました。とてもかわいらしい
世界になった！この帽子、ボールが縫いあがりました。

今日は身だしなみをマニークード染めて、お正月装を縫います。
お正月で、草を染め、縫いものを染めしめたり
お正月装は、お正月を入れたり、着成えを入れたり、お正月装に
お正月装は、お正月を入れたり、着成えを入れたり、お正月装に



前記の方、園内見学希望の方
お電話下さい。
駐車場は車で専用①と②利用
下さい。道路カーブの路肩
は駐車して頂いて下さい。

暑い夏の日光
をたっぷり受けて
アゲアゲ、こんな
暑さの方が
楽しいです。

〃(4) 手作りおやつ
 マクサ等國子作り
 十三夜にはちねと遊んでますか
 琳様で。お月見國子を作りまして、
 マクサ等を使つたので、赤い紙で包んでお返し。
 お月様お天に人々くちめけつねね。



11/12 (水) 木の葉や木の実
木の枝を使って
フォトフレーム作り
木の枝を組み合わせて、フレームを作り、
木葉や木の実に飾り付け
完成! 秋のアートを楽しく作ろう。
参加費ある人は参加して下さい。

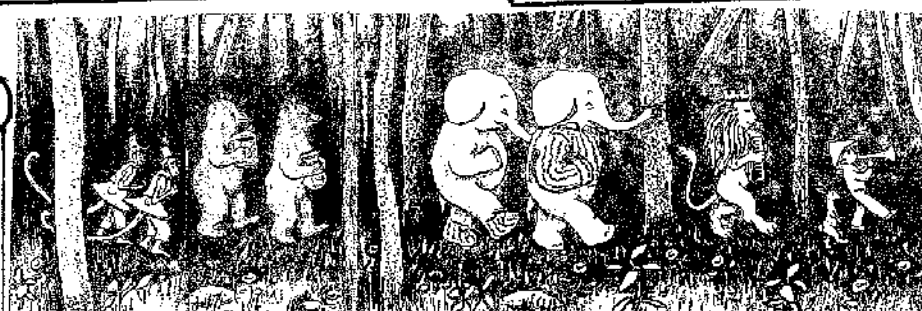
11月予定

園庭開放 (月～金) 8:30～19:30				
月	火	水	木	金
	ひよ広場 9:30～12:30 0才～	たんぽぽ広場 9:30～12:30 1才前後～		たんぽぽ広場 9:30～12:30 1才前後～
3 文化の日	5 (おれぽう) おれぽう係員 ふれあい係員 おれぽう、おれぽう、おれぽう	5 おれぽう通ぽう 運動制限おれぽう	6 園庭開放	7 多目的おれぽう (おれぽう) おれぽう、おれぽう、おれぽう
10 園庭開放	11 おれぽう、おれぽう おれぽう係員 ふれあい係員 おれぽう、おれぽう、おれぽう	12 おれぽう、おれぽう おれぽう係員 ふれあい係員 おれぽう、おれぽう、おれぽう	13 園庭開放	14 (おれぽう) おれぽう、おれぽう、おれぽう おれぽう、おれぽう、おれぽう
17 園庭開放	18 (おれぽう) おれぽう係員 ふれあい係員 おれぽう、おれぽう、おれぽう	19 おれぽう、おれぽう おれぽう係員 ふれあい係員 おれぽう、おれぽう、おれぽう	20 園庭開放	21 おれぽう、おれぽう、おれぽう おれぽう、おれぽう、おれぽう
24 振替休日	25 園庭開放の日 (おれぽう) おれぽう係員 ふれあい係員 おれぽう、おれぽう、おれぽう	26 (おれぽう) おれぽう係員 ふれあい係員 おれぽう、おれぽう、おれぽう	27 園庭開放	28 園庭開放の日 (おれぽう) おれぽう係員 ふれあい係員 おれぽう、おれぽう、おれぽう

※都合により変更する場合があります。
予定していた外遊が雨の場合、室内遊ばせを行います。
月令と曜日を分けていますが、どの月令でもセンターを利用してF.S.U.

アノキハカモウキヤクニ
参加して下さい。

談相
毎週 日 10:00 ~ 12:00 (他も通時可)
子育て中の悩みや心配な事に保赤
看護師が相談に乗ります
お気軽にお電話



11/19(木) 子育て勉強会

大きく育ちたい
賢く育ちたい 子供の意欲

高橋弘子さんの話

日々の暮らしの中で様々な事が起っている今、
子ども育ちには何をすればいいのでしょうか？
保育園の生活の中で豊かに育っていく
子ども達の姿をたくさん見てもらいたいとお話。
そこから子育てのヒントも学ばせられました。

うたに合ふでや
赤あはれ様しまはう

うたをうたい作らう。お母さんの歌で
赤あはれに歌うていくマウサジです。
マウサジに歌うていく時、歌をう
たうお母さんとおあはれです。
マウサジの後は、ふかふかの道で、
絵本も楽しむわね。

お願ひ
マスコの着用に付きましては、値上げの判断にお任せ致します。
おまじの消毒、衛生面に配慮致します。
お施遊び、砂遊びがはかばかしく、後のタオルを持参して下さい。
2019-12-30
終了して下さい。

読んでほみたけど
聞いているように
見えません。

広場で 赤ちゃん達に 絵本を読んでも、とってもいい顔をして
じっと絵本を見ています。「お家でも たくさん読んであげて下さいね」
とお母さん達に お話しています。「これでいいのかな？」
「うちの子、好きじゃないのかな？」など 迷う事もあるのかと思ひお。
そんなお母さん達に向けた記事があったので参考に
して頂きたい。 たくさんの絵本と出会って
大きく成長してほしいと思ひお。

特に赤ちゃんの場合、絵本を読んでも、言葉が屈
いているのかどうかかわかりませんよね。でも、実
は赤ちゃんは胎内にいる頃から耳が聞こえていて、親が
絵本を読む声はちゃんと届いています。なお、絵本を意
識的に見ることはできるのは、一歳に近づく十カ月頃か
らと言われています。

赤ちゃんは大人が話す言葉を聞いて、言葉を獲得して
いきます。だから、話しかけは大事なのですが、母子ふ
たりきりという環境で、一方的に話しかけ続けるのが難
しい方もいると思います。そんなときは絵本の出番。そ
れに絵本の文章は作家や詩人が選び抜いた言葉です。す
ぐれた日本語を赤ちゃんの耳に届けてあげましょう。
ところで、四、五歳以上の、大きな子どもたちも、絵
本を聞いていないように見えることがあります。

一九五〇年代から絵本の編集、研究に携わってきた松
居直（福音館書店相談役）が自宅で我が子たちに絵本を
読んでいるとき、上の子は聞いていないそぶりや隣の部
屋にいった。ところが、読みすすめていくと、ここぞ
という箇所、その子が隣の部屋から絵本のせりふを言
った。なんだ、聞いていたのか、と思ったそうなんです。
「言葉することになっていない」と、我が子相手であつて
も最初は緊張します。そしてその反応も気になるところ。

無反応だと「せつかく読んだのに、なんだよ」と思うか
もしれません。でも、意外と子どもは聞いていますし、
あまり反応を求めると、子どもがいやになってしまふの
で気を付けてください。

「物語を開ける力」というのは、物語という目に見えない
世界を、自分の心の中に見えるようにする、絵（イメー
ジ）にする力です。一般に想像力（イマジネーション）
といわれる力です。（中略）子どもは、生まれたときか
ら、豊かな想像力を持っているわけではありません。それ
は直接、間接の体験を通して獲得されるものです。体験
が豊かであればあるほど、想像力も豊かになるでしょう。
絵本は、幼児にとって体験を豊かにする機会にあたえま
す。」

松居直著「絵本とは何か」七七八頁

絵本が多すぎて
どれを選んだらいいのかわかりません。
絵本選びの
コツはありますか？

なるほど、本当にたくさん絵本があるのは、本当にたくさん絵本がある中から「よい絵本」を自分で選ぶのはなかなか難しい。

すぐれた絵本を選ぶひとつの目安として、成人式を終えた絵本、というのがあります。

その絵本が出版されてから、二十年以上、読者に支持されてきた、つまり、子どもたちに喜ばれてきた絵本、ということ。絶対的な基準ではありませんが、ひとつの信頼の目安になるのではないのでしょうか。

たとえば、「ぐりとぐら」は一九六三年刊行です。比較的歴史の新しい「赤ちゃん絵本」の世界でも九五年に刊行された「でてこいでこい」など成人式を迎える絵本が現れています。

一方、新しい絵本の中にも、もちろん、いいものはあります。まず、古典にふれて、目を養っていただけたら、新しい絵本の中でいいものが見えてくると思いますよ。



「でてこいでこい」 林明子作

子どもの「もっかい！
（もう一回読んで）」には
何回までつきあえば
いいのですか？

そうそう、子どもは何度も何度も「もっかい！」と言つてきますよね。大人としてはつらいところ。のどもしんどくなるし、飽きてくる。でも、やはり、どうか、できるかぎり、つきあってあげてください。

長谷川根子さんは、子どもが絵本を何度も読んでほしいが、大人が音楽を何度も聞きたくなる気持ちと同じでは、と書いています。とすれば子どもの「もっかい！」は、人気歌手へのアンコールみたいなもの。その声に答えてやろうではありませんか。

それに子どもが大きくなるにつれて、「もっかい」の回数は減ってくるものです。あとから振り返ると、アンコールの声がかかるのは、ほんのわずかな年数。その貴重な時間をどうか楽しんでください。

絵本に詳しい人におすすめされた
絵本の絵が
びんとこなくて……



きつと、絵が「淡い」と感じるのです。子どもの本は、もつと明るくて、かわいらしい絵がいいのでは、と。でも、だまされたと思つて、一度子どもに読んでやってみてください。意外な体験が待っているはずですよ。

たとえば、先ほど登場した「三びきのやぎのらがらどん」。地味だと感じる人もいますが、絵本に興味を持たない子どもの足さえとめてしまふほどの力を持っています。

「しやうほうじどうしやぶた」という絵本には、現在は普通に見かけることのない古い車種の車が登場します。子どもが喜ばないのでは、と心配するかもしれませんが、実際に多くの子どもが今もこの作品を楽しんでいます。ある二歳の男の子は消防署の前を通つたとき、「（主人公の消防車）じぶたをさがす」と言つて、車を眺め始めた。じぶたと同じ型の車はありませんが、小さなバン型の消防車を見つけて「じぶた、いた」と喜んでいました。

この絵本の絵を見ると、ヘッドライトの部分がまるで目のよう。子どもが感情移入しやすい巧みに描かれているのです。子どもたちにとっては、古い、新しいということより、そこに描かれた絵が「生きてる」かどうかのほうが重要みたいです。

